

「自然との共生」をめざした「環境教育」のあり方 ～身近な環境や自然に対して主体的に関わることのできる子どもの育成～

I. 主題設定の理由

地球温暖化や廃棄物、自然破壊などの様々な今日の環境問題を解決するためには、我々一人一人が環境と人間との関わりや自然など環境の価値についての認識を深めるとともに、環境問題を引き起こしている社会経済等の仕組みを理解し、環境に配慮した仕組みに社会を変革していく努力を行うことが必要である。

文部科学省では環境教育について「環境や環境問題に関心を持ち、人間活動と環境とのかかわりについての総合的な理解と認識の上に立って、環境保全に配慮した望ましいはたらきかけのできる技能や思考力、判断力を身につけ、よりよい環境の創造活動に主体的に参加し、環境へ責任ある行動がとれる態度を育成する。」ことと定義している。(文部省『環境教育指導資料』中学校・高等学校編 1991年、小学校編 1992年) 小学校における環境教育では、子どもが身近な環境に意欲的にかかわり問題を見出し、考え判断し、よりよい環境作りや環境の保全に配慮した望ましい行動がとれる態度を育てることを目指す。生じている問題への「気づき」「知識」「問題解決への実行力」を育て、最終的には自分達のライフスタイルを見直す力量をもつことが期待されている。

環境教育や環境学習の機会を充実させ、環境や自然に対する豊かな感受性と熱意、見識をもつ「人づくり」をめざし本テーマを設定した。

II. 研究の具体的内容

1 環境教育に関わる学習会

「身近な環境問題について考える」

講師 山梨市 市役所 下水道課 鈴木祐之さん

- ・山梨市の下水道の普及率や家庭から出された排水の行方について学び、きれいな河川を守るためにできることを考える。

2 研究授業

資料を持ち寄っての理論研究 内容の検討 授業案検討 授業資料準備

4年 総合的な学習「きれいな川を守ろう」

加納岩小学校 授業者 今澤 比呂樹 教諭

- ・川の環境を守るために自分たちにできることを考える。
- ・オレンジジュースを使って、パックテストを行い、水の汚れを調べる。

6年 総合的な学習「地球環境の様々な問題のつながりを考えよう」

東雲小学校

授業者 武井 文明 教諭

- ・新聞やアンケートから出された言葉から地球環境の様々な問題のつながりを考える。
- ・地球環境を守ることが人類にとって不可欠なことであることを理解する。

3 一人一実践の報告

4 臨地研修 山梨市牧丘町乙女高原の自然観察（講師 石原 喜久夫教諭）

Ⅲ. 成果と課題

1 学習会

環境教育というと地球規模の問題に目がいきやすいが、身近にあり、生活には不可欠な存在であるはずの下水道の問題には、あまり関心を持たないことが多い。市役所の下水道課の方がたくさんの資料をもとにわかりやすく地域の下水道の現状や今後の計画について説明してくださったことにより、下水道が河川的环境と大きくかかわっていることを学ぶことができた。

2 研究授業

四年生の総合学習の「きれいな川を守ろう」の実践では、子どもたちがオレンジジュースを使ったパックテストを行い、水の汚れの原因となるものを考えた。実験を通して身近な川や家庭の排水から環境に関心を持たせ、自分たちに何ができるだろうかと考えさせることが環境教育の大きな第一歩であり、その実践ができた授業であった。

六年生の総合学習の「地球環境の様々な問題のつながりを考えよう」の実践では、地球温暖化や砂漠化など地球環境の様々な問題を新聞記事から探し、カードに線を引く活動を通して、環境問題はお互いに影響を与え、複雑に絡み合っていることを実感することができた。身の回りの環境問題も複雑なつながりの中から生まれていることを子どもたちが考えるきっかけとなる授業になった。

3 実践報告

総合、生活、学活など様々な取り組みの紹介があり参考になった。お互いに実践発表をしたことで、いろいろな視点から環境問題について考えることができた。

環境について学習したことを学校全体や家庭に発信していけるような活動にも取り組んでいきたい。またたくさんの情報をうのみにせず環境について、様々な角度から子どもたちに伝えていく必要があるという意見が出された。

4 臨地研修

牧丘地区の琴川ダムと乙女高原の自然観察をおこなった。講師に環境部会の石原先生をお願いし、普段は見られない川の中の生き物を観察したり、高原を散策したりした。特に乙女高原は夏の花が満開で、こうした美しい自然を守るために草刈りなどの努力がされていることを学ぶことができ、有意義な一日となった。

（部長 早川 博江）